

玉川ダムの7月22～23日における 洪水調節の効果について

～管理開始(平成3年4月)以降最大の流入量(約1,030m³/s)を記録～
～特別防災操作によりダムからの放流量を絞り込みました～

玉川ダムでは7月22～23日の前線の降雨の影響による出水において、管理開始(平成3年4月)以降最大の流入量、約1,030m³/sを記録しました。
玉川ダムからの放流量は、最大で約200m³/sで約830m³/sの洪水調節を行いました。
また、玉川や雄物川の水位が氾濫危険水位を越えていたため、ダムからの放流量を通常の200m³/sから約50m³/sに絞り込む**特別防災操作**を実施しました。
その結果、玉川ダムでは約3,170万立方メートルの水を貯め込んで下流地域の洪水被害の軽減に努めました。

※東京ドームに入る水に換算すると、約25個分を貯めた事になります。

※25mプールに入る水に換算すると、約106,000杯分を貯めた事になります。

■洪水発生日
平成29年 7月 22日～23日

■防災操作の概要

| 年月日 | 平成29年7月22日～23日 |
|-----------|----------------|
| 総雨量 | 流域平均 約262.3mm |
| 最大時間雨量 | 流域平均 約30.0mm |
| 最大流入量 | 毎秒 約1030立方メートル |
| 最大流入時の放流量 | 毎秒 約198立方メートル |
| 最大調節量 | 毎秒 約830立方メートル |
| 貯留量 | 約3,170万立方メートル |

○詳細は別紙：玉川ダム・鏡畑ダムの治水事業効果のとおり。

※最大流入量＝ダムに入ってきた1秒間の最大の水の量

※最大流入量時の放流量＝1秒間に最大の水の量が入ってきているときのダムから流している水の量

※調節量＝ダムに入ってきた1秒間の最大の水の量－その時のダムから流している水の量

※貯留量＝ダムに貯め込んだ量

発表記者会：秋田県政記者会、秋田魁新報社角館支局

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 玉川ダム管理所

管理所長 山田 光雄 (内線：201)

専門職 大淵 剛志 (内線：330)

管理係長 奈良 匠 (内線：332)

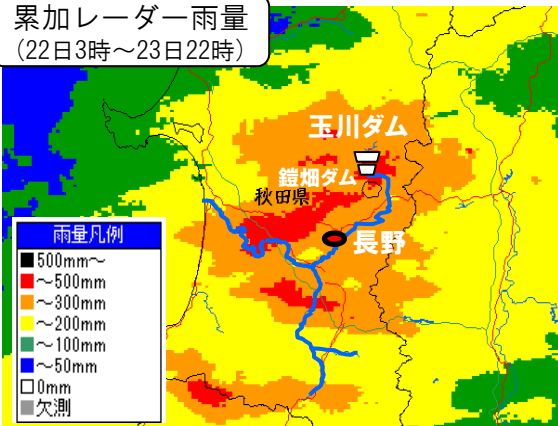
〒014-1205 秋田県仙北市田沢湖玉川字下水無92

TEL：0187-49-2170 / FAX：0187-49-2166

玉川ダム・鎧畑ダムの治水事業効果

別紙

累加レーダー雨量
(22日3時~23日22時)

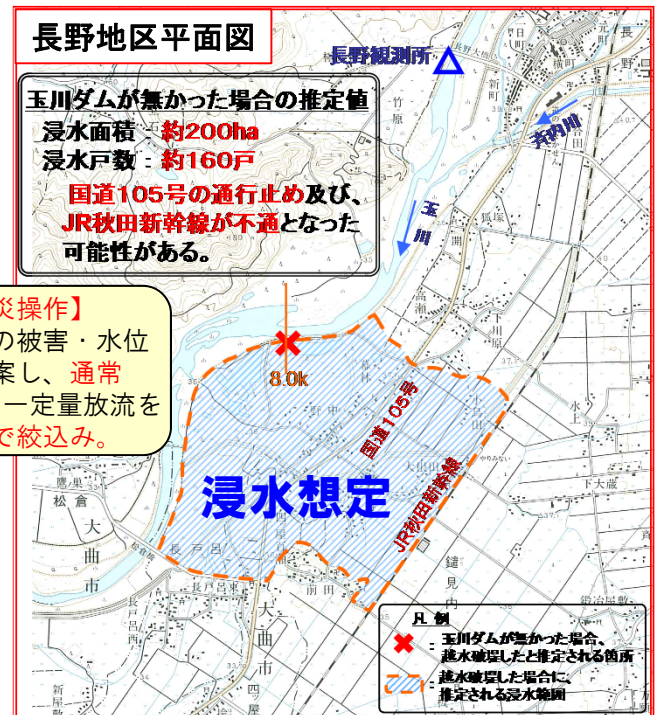
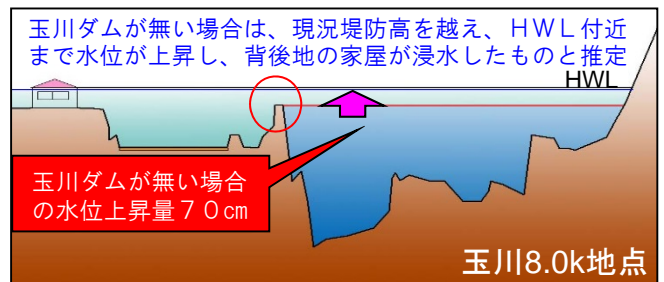
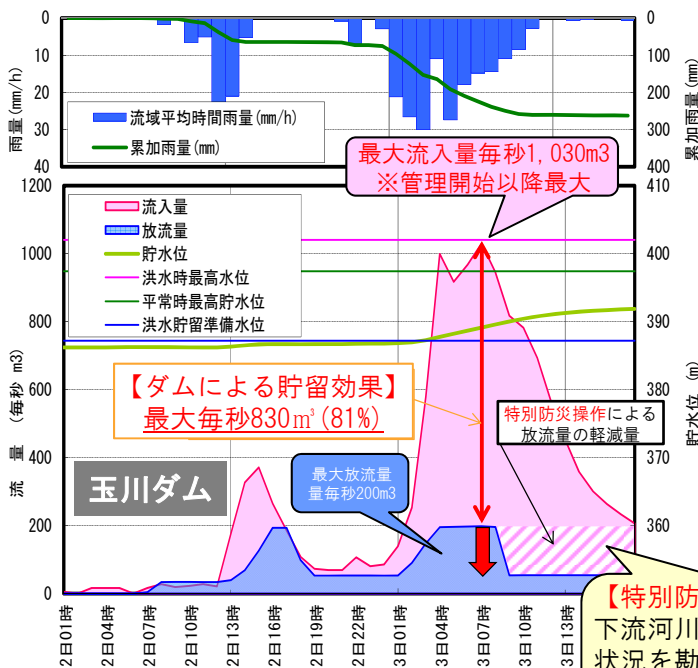


○支川玉川に位置する玉川ダム(国)・鎧畑ダム(県)では、平成29年7月22日から防災操作を行いました。玉川ダムでは平成3年の管理開始以降最大の流入量(約1,030m³/s)を観測し、ダムに流れてくる水量の一部(約3,170万m³※東京ドーム25個分)をダムに貯めることで下流へ流す水量を最大で約81%低減しました。

○ダムによる洪水調節の結果、長野地区の洪水被害(浸水面積:約200ha、浸水戸数:約160戸、国道105号通行止め、JR秋田新幹線不通)を未然に防ぐとともに、雄物川の被害軽減に寄与したと推定されます。

| 玉川ダム諸元(国土交通省管理) | |
|-----------------|---------------------|
| 型式 | 重力式コンクリートダム |
| ダム高 | 100.0m |
| 堤頂長 | 441.5m |
| 総貯水容量 | 254百万m ³ |
| 有効貯水容量 | 229百万m ³ |

| 鎧畑ダム諸元(秋田県管理) | |
|---------------|--------------------|
| 型式 | 重力式コンクリートダム |
| ダム高 | 58.5m |
| 堤頂長 | 236.0m |
| 総貯水容量 | 51百万m ³ |
| 有効貯水容量 | 43百万m ³ |



※記載の数値は速報値であり、今後変更の可能性があります。



防災操作開始前の貯水位 EL. 385.9m

防災操作終了時の貯水位 EL. 391.9m

【特別防災操作】
下流河川の被害・水位状況を勘案し、通常200m³/sの一定量放流を50m³/sまで絞込み。

玉川ダムが無かった場合の推定値
浸水面積: 約200ha
浸水戸数: 約160戸
国道105号の通行止め及び、JR秋田新幹線が不通となった可能性がある。